



10月の花：月下美人

事務所便り

令和5年10月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘
重村行政労務管理事務所
ご連絡先：〒235-0021
：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102
電話・FAX：045-754-3412 携帯:070-5542-1466
E-mail：shigemura.office@etude.ocn.ne.jp

●米、在日宇宙軍を創設へ 中朝の脅威に対応

米軍が北朝鮮の弾道ミサイルや中国の覇権拡大などの脅威に対応するため、日本に宇宙領域を担う新たな部隊「在日米宇宙軍」(仮称)を創設することが分かった。年内の発表を目指して準備を進めている。重要性を増す宇宙領域で在日米軍を強化し、自衛隊との連携を拡大する。日米韓が進める北朝鮮ミサイル発射情報の即時共有も支援する。

新部隊はハワイにあるインド太平洋宇宙軍の傘下組織となり、設置場所として在日米軍司令部のある横田基地(東京都)が候補となっている。



インド太平洋宇宙軍は衛星通信や兵器システムの位置情報、ミサイル警戒などに関する任務を担い、この地域に展開する陸海空などの各軍や統合作戦を宇宙から支える。新部隊もこうした役割を通して在日米軍を強化し、防衛省 2022 年3月に航空自衛隊府中基地(東京都)に編成した「宇宙作戦群」と連携する。宇宙航空研究開発機構(JAXA)とも協力していく。陸海空自衛隊の一体的運用を図る「統合司令部」が設けられるのに合わせ、日米間で宇宙を含む多領域での連動がより円滑になると期待される。マスターア氏は、新部隊が「日本との同盟をさらに強化する上で目玉となる」と強調した。

防衛省は宇宙領域の対応強化を進めており、2020年5月には空自内に「宇宙作戦隊」が府中基地(東京都)で発足した。人工衛星に危険が迫っていないか監視する業務などを担当。22年3月には「宇宙作戦群」に改編された。今回の安保3文書の改定でも、小型の人工衛星を多数打ち上げて、敵の位置情報などを把握するといった強化策が盛り込まれる。2027年までには航空自衛隊は航空宇宙自衛隊と改称する予定。防衛の世界も広がりますね。

●「統合司令部」巡る陸海空3自衛隊の結束

陸上、海上、航空の3自衛隊の特徴を言い表す有名な四字熟語がある。

陸自＝「用意周到」「動脈硬化」

海自＝「伝統墨守」「唯我独尊」

空自＝「勇猛果敢」「支離滅裂」

自衛隊内で長年、ユーモアを交えて語り継がれてきた。3自衛隊の長所と短所についてそこそこの確に指摘している。

陸自は、綿密な作戦や計画を時間をかけて立てるのが非常に得意な反面、柔軟で機動的な対応を欠きがちだ。旧海軍の伝統も大切にする海自は、正しいと信じたなら周囲の助言にも耳を貸さない傾向が否めない。空自は、領空侵犯機に対する緊急発進(スクランブル)などの任務を真っ先に担うが、いったん空に飛び立った後は自由気ままな面がある。そんな解説を聞く。

日本の安全保障環境が「戦後最悪」とも評される今、防衛力の抜本的な強化は待ったなしだ。高価な装備を大量に導入するだけでなく、3自衛隊がそれぞれの持ち味を生かしつつ、結束を一段と強める必要がある。特に現代戦においては陸海空宇宙が一体となった統合作戦が要求される。

政府は、陸海空3自衛隊を一元的に指揮する「統合司令部」を2024年度に防衛省のある東京・市ヶ谷に創設する方向で調整に入った。台湾有事に備え、日米共同の作戦計画の策定などを通じ、日米同盟の抑止力、対処力を強化する狙いがある。

政府は昨年末に改定した国家安全保障戦略で統合司令部の設置を明記した。同省は24年度予算の概算要求で市ヶ谷防衛庁・陸海自衛隊

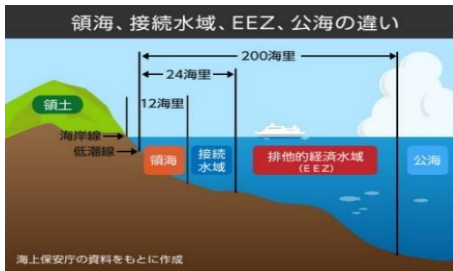


司令部の設置費用を計上する。自衛隊の組織改編を伴うことから、来年の通常国会にも自衛隊法改

正案を提出する見通した。3 自衛隊の統合運用により増大する脅威に対応する必要がある。

●尖閣諸島のEEZ内、中国が新たに海洋調査ブイ

尖閣諸島(沖縄県)近くの日本の排他的経済水域(EEZ)内で、中国が海洋調査ブイを新たに設置したとして、日本



政府が中国側に抗議したことがわかった。同諸島の接続水域(領海の外側約22キロ)では昨年、中国海警船の航行日数が過去最多の336日になっており、実効支配を目指す中国側の動きが加速している。ブイで波高や潮流などのデータを集め、海警船の運用に活用している可能性がある。



このような外国の調査ブイは直ちに我が国で撤去すべきものである。【図解】日本の領海、接続水域、EEZの位置関係

●2023年のノーベル賞の受賞予測

ことしのノーベル賞発表が次の日程で行われる。10月2日の生理学・医学賞から始まり、

- 3日に物理学賞
- 4日に化学賞
- 5日に文学賞
- 6日に平和賞
- 9日に経済学賞

の発表がおこなわれる。



世界中の研究論文を分析するイギリスの学術情報サービス会社「クラリベイト」は、世界の研究者が発表したおよそ5800万本の研究論文などの分析をもとに、ノーベル賞の受賞者を予測していて、ことしは受賞が有力視される研究者として、5か国から23人を発表した。

このうち、日本からは、

- ◆ノーベル生理学・医学賞の有力候補として、▽筑波大学・国際統合睡眠医科学研究機構長の柳澤正史さん
- ◆ノーベル化学賞の有力候補として、▽川崎市産業振興財団の副理事長で、ナノ医療イノ

ベーションセンター長の片岡一則さんの、2人が挙げられた。

柳沢さんは、脳で分泌される「オレキシン」という神経からの信号を伝える物質が、睡眠の制御に関わっていることを発見し、突然、強い眠気に襲われる睡眠障害の一種「ナルコレプシー」の原因の解明や、不眠症の治療薬の開発に貢献したことなどが評価された。

片岡さんは、ナノマシンと呼ばれる1ミリメートルの1万分の1以下という極めて小さい物質に薬を乗せて、狙った場所に送り届ける技術を開発し、がん治療やアルツハイマー治療の進歩に貢献したことなどが評価された。

「クラリベイト」が有力候補として挙げた研究者の中からは、これまでに71人がノーベル賞を受賞している。

●イグ・ノーベル賞とは？

イグ・ノーベル賞(Ig Nobel Prize)は、ノーベル賞のパロディー(裏ノーベル賞)として「人々を笑わせ、そして考えさせる研究」に対して贈られるもの。科学ユーモア雑誌「Annals of Improbable Research」の編集者マーク・エイブラハムズ氏が1991年に創設し運営されている。ノーベル賞と同じく複数の部門があり、毎年5000以上の研究や業績の中から選考される。イグ・ノーベル賞を手渡すプレゼンターは、ノーベル賞受賞者が行っている。授賞式は2023年9月14日18時(アメリカ東部時間)にオンラインで行われ、1996年にノーベル生理学・医学賞を受賞したピーター・ドハーティー氏によって授与された。

受賞対象となった研究(論文)

今回のイグ・ノーベル賞(栄養学)の受賞は、宮下芳明教授と当時 明治大学大学院博士前期課程に所属していた中村裕美特任准教授が2011年に発表した論文「Augmented Gustation using Electricity」に対するもの。この論文は、微弱な電流を流すストロー・箸・フォークによって飲食物の味を変えて食体験の味覚を拡張するビジョンを掲げたもの。この論文は、2021年にも、発表後10年間、多く引用され広くインパクトを与えた論文に与えられる「Lasting Impact Award」をAugmented Humans 2021で受賞している。

●2023年日本人ノーベル賞有力候補(追加)

- 生理学賞 森氏 異常たんぱく質検出・修復／小川氏 脳血流中酸素濃度を撮像
- 物理学賞 十倉氏 高温超伝導体／松波氏 SiC パルサー
- 化学賞 石田氏 合金の熱力学 DB 構築／北川氏 多孔質材、孔の大きさ精密制御

文学賞では村上春樹氏や多和田葉子氏、小川洋子氏これらの方が候補に挙がっております。